## 乾杯

芙蓉会会長

# 守屋 敏道

皆さん、こんばんは。ご紹介いただきました、芙蓉会の会長をしております守屋でございます。

毎年芙蓉会の会長に乾杯の役目を仰せつかりまして、誠に光栄に思っております。本日は芙蓉会のメンバーも多数この特技懇親会に参加させていただいております。誠にありがとうございます。

最初に新しく入られました新人の39名の方、入庁おめでとうございます。今一所懸命勉強されていると思いますが、一人前の審査官になるには、ひたすら勉強をし続けることが必要ではないかと思います。5月に即位されました新しい天皇陛下も、日々研鑽されるとおっしゃっていましたので、陛下に倣って研鑽を積むように、ぜひお願いしたいと思います。

それから特許庁の状況でございますが、先ほど長官、技監からお話がございました。それから先週、特許行政年次報告書が出版されまして、中身を拝見いたしますと、特許庁が様々な施策を幅広くかつグローバルに展開されているということでありました。先ほど話がありましたスタートアップ、それから新興国の支援政策等々、グローバルに展開をされてJPOの名前が世界に響き渡っているのではないかというふうに思っておりまして、敬意を表する次第であります。

審査の方に目を転じますと、JPOの審査件数よりも上に、アメリカと中国がいるわけでございますけれども、年次報告等を拝見しますと、米国と中国で今年は審査も含めて転機を迎える年ではないかというふうに思っております。

アメリカでは60万件ぐらいの審査をしているわけでございますが、Patentable subject matterの見直しをしたり、クレーム解釈の見直しをしたりということで、どうもプロイノベーションの方にもう少し振れてくるのではないかというような兆しが見えております。

そして中国でございますが、毎年この場で出願状況を報告させていただいておりますけれども、なんと中国の特許出願が減少にいたりました。今年の6月までは前年同月比で10万件の減ということで、大きく変化が出てくるのではないかと思います。

さはさりながら、中国の特許文献のストックを見てみますと、今年中には世界一のストック状況になると思います。現在、日本は2400万、アメリカは1500万位の文献数ですが、中国は2250万位の文献があります。今年中に世界一になるということであります。

審査の件数ではアメリカや中国には勝てませんけれども、ぜひ、世界をリードするような品質で勝負していただいて、世界の特許審査、あるいは意匠出願の審査をJPOがリードするというような形で進めていけるよう、お願いしたいと思っている次第であります。

そのようなことを特技懇のメンバーの皆様にご期待申し上げまして、乾杯の方に移らせていただきたいと思います。

それでは、特許行政のさらなる発展と、特技懇の皆様方のご活躍と、それから今日ご参列いただきました皆様方のご健勝を祈念して乾杯をしたいと思います。

ご唱和ください。乾杯。